

変妖

松本建彦

幾百株のボタンの古木に囲まれた

牡丹屋敷と呼ばれている その古い家の中で、

若い母は まだほっそりと

心狂わせる花盛りの牡丹と競って

露しげき朝夕をすごした

細い糸糸のように立ち昇る

忍び音のうぐいすが

幾たびとなく 来たり去ったりしていたが

牡丹の花々の匂いが

あたりの空気を ねっとり灼き上げ

しゅると伸びている 今年竹のゆらめき

春の男部屋には 作男たちの 噂の種がつかない

女部屋の小女たちの くぐもっている

濃い日向闇の 裾よけの拡がりの

むれているほのあたたかい 秘めやかな風ひとつ

春天の一変して 容赦なく吹き荒れる青嵐

一夜にして 牡丹花は引き千切られて

若い母は 裏庭で青い乳汁をさらしの布に

しぼっている